



南中だより

No. 16 令和2年2月12日

伊丹市立南中学校長 柳井 泰司



1・2年生 恒例カルタ大会



2年生は1月20日(月)6校時、1年生は、1月23日(木)6校時にインフルエンザの流行が心配されましたが、その心配もなく3学期の恒例行事である「カルタ大会」を行いました。

先生方が読み手となり、上の句を読んだ瞬間、素早く札を取る光景があちらこちらで見られ、歓喜あふれる声が聞こえ、日頃の学習と練習の成果を発揮していました。穏やかで、楽しいひとときでした。

1年職業講話(トライやる・ウィークに向けて)

令和2年5月11日(月)～5月15日(金)に実施されるトライやる・ウィークに向けて、職業講話を行いました。

1月27日(月)6校時 武道場

- 伊丹市役所介護保険課職員・南地域包括支援センター職員6名が来校され、認知症サポーター養成講座をしていただきました。伊丹市では高齢者が4人に1人、認知症は7人に1人います。認知症への理解・認知症の人との接し方・認知症サポーターの役割等のお話を寸劇を交えながらとてもわかりやすくお話していただきました。
- 三田市農家、一般社団法人アスパラガス代表理事・生野菜 清水商店の清水 浩一さんから農業についてのお話をいただきました。農業には「8」と「100」があり、農業の「8」は、①育てる②たくす③渡す④合わす⑤届ける⑥加工する⑦体験する⑧つなぐ、農業の「100」は、「100の事ができる人」「100の仕事ができる人」「100の事を目指す人」。農家ではなく百姓でありたい。働くのはどうしてか？については、「ありがたいを見える化するため」。台風などの自然災害にあっても、また次の日頑張ろうと前向きになれる。それが、農業。など今後に生かせる貴重なお話でした。



2月6日(木)6校時 武道場

- 小山助産所の小山 千里先生(CLoCMiP レベルⅢ認定助産師/伊丹市助産師会会長)からお話をいただきました。生と死は表裏一体、いのちの重みを知り、いのちの

大切さを知る。助産師・看護師は国家資格が必要。助産師は女性しかねない職業。A Iに置き換えられない大事なものがここにある。A Iにかわれない技術（手技）がここにある。

いのちのつながり

あながが今ここにいること
それは いのちの誕生から受け継がれた大切ないのちのつながりである
そのつながりが 一つでもつなげなければ
あなたたちは ここに存在しない

- こばと保育所から2名（副所長・職員）が来校されました。保育士の仕事は朝の受け入れから始まり、食卓・遊び・昼寝、そして保護者への引き渡しまで気が抜けない。子ども一人ひとりの状態を常にチェックし、子ども達が楽しく元気に活動できるようサポートしています。こばと保育所では子どもの「主体性」を大切にし、子ども達の関心や興味に合わせた取り組みをしています。働く中で大変な事は一人ひとりの思いに応えることは難しいが、近づいて甘えてくれる事が力になっています。



今回の職業講話を通して、来年度実施するトライやる・ウィークに活かし、自分自身の将来の夢や職業選択に少しでも繋がってくれればと思います。

スマホが学力に与える影響

- ・ スマホの使用は、「学習時間」や「睡眠時間」を短くするといった間接的なものではなく、スマホの使用そのものが学力に与える影響の方がはるかに大きい。
- ・ スマホを使うことで、「情報処理や思考の中核」である「前頭前野」の活動が悪くなる。
- ・ スマホを1日4時間以上使っている子どもの脳を調べてみると、中2になっても、小6の時のままで、成長が止まってしまっている。
- ・ スマホの発明者である、ビル・ゲイツやスティーブ・ジョブスは、自分の子どもにはスマホを持たせていない。

（脳科学者 川島 隆太講演会より）

